

新春 対談 トップ

世界から選ばれる



田舎付ていた方がいい。そういう人たちが、勇気をもらい、支えられました。事業をやるには、マネージャ面を、単にマネージャと捉えるのではなく、それを自身の教訓にして、どうフランスに転化するのかという発想が必要。そうしないと、物事はなかなか進みません。

中嶋 どのくらい、日本人の学生は、本学に大学に行きたいと思ってるのでしょうか。アメリカ留学するにも、本学でアメリカに行きたいと思わないと、あれほど遠くまで行かないでしょう。そういう意味で、国際的な魅力を持たないといけない。あれだけ留学生が集まっているのは、APUにはそれだけの魅力があるということでしょう。

留学生が日本に残ってくれるAPUの力

しょう。しかも、多くの留学生の卒業生が、日本で就職しています。これは今までになかったことです。非常に見習うべき点です。これからの時代に、多国籍多文化というものが必要なので、もっと開かれた大学や、社会を作らないといけないでしょう。

われわれも幸いにして、授業料を相互免除できる大学を一つ一つ増やしていった関係から、最近では、秋田で日本語教育を受けたという留学生がずいぶん増えてきました。この年も、台湾から学生がたくさん来てくれます。本学は、日本では話題になりませんが、海外ではまだ知られていない大学です。その

ような状況でしたから、授業料を相互免除するという提案は、外国の大学には授業料が入りませんし、メ리트が高いとは言えません。その状況が、最近変わってきました。先口「協定を結んでくれなかつ」と、それも韓国の一流大学の延世大学から直接、申し込みが来ました。協定校がだんだん増えてきました。

本学の魅力が伝わったと嬉しいと思いますし、そういう大学が、日本を増やさないといけないでしょう。

川本 開学当初、APUには10カ国・地域から留学生が来ました。それが20、30と増えていきました。そこを越えたと、日本に来ていた各国の領事館・大使館の目の色が変わりました。大使が、自分の国の学生がAPUでどう学んでいるのかが気になりました。きたらうです。そこまでいくのには、ずいぶん苦労しました。

また、いかに国際的人材が必要かについては、企業との国際的展開から考えることが重要だと思います。もちろん日本人、日本を愛し、信用し、日本の教育を受け、日本を理解してくれている外国からの人材が必要なのです。企業は、真の意味で日本を垣解した優秀な人材を求めています。国際化の問題は、企業ともに学びあひながら、考えていく必要があるのです。

染谷 先づ、大学の職員の話が出ました。中嶋先生は、APUの職員を評価していますけれども、日本の大学では、職員のあり方、育成の問題も残されているのではな

本当の大学改革は、ま カリキュラムの



題も残されているのではな

中嶋 うちは、職員、教員が車の両輪という位置づけです。副学長の一人は職員で事

大学にとって大切 な職員の質と意識

務局長も兼務しています。職員の名にも、MAやMBAを取った人や、授業を担当する職員もいます。かつて国立大学のときは、教授会が事務局長が学長の横に並ぶだけで、文句が出る時代もありました。後継に控えていました。初めに横に並んでいました。本学は、事務局の代表が、着任決定の役割の一端を担っています。海外の大学では普通です。

また、入試の際にも、AO入試の会議にも、事務局長が入りますが、すぐ助かっています。本学のAOには染谷さんのおまな外部の人も入っていただいています。入試の選抜の仕方が根本的に変わりました。

先ほどの暫定入試制度も国立大学ではできなかった

です。議論だけでも数年かかり、いいことかと思っても、なかなか進まず。暫定入試で入学した生徒は、みな成績も良好です。

川本 正直に申し上げまして、私たちの半時代、大学の事務職員になりたいと思う学生というのは、例外的でした。

しかし、これからの大学で大事なものは、職員の質だと思います。教員は、専門的な質問を学生に教えることが仕事であって、大学全体をどうするかを考えるのが仕事にはありません。実態を調査し、問題を解決するのは事務局や、事務職員なのです。職員のレベルが低いようでは、理事長や学長に政策提言ができません。質の高い職員が必要なのです。

染谷 大学も国際競争の波にさらされています。海外、どこの二人の大学は、海外から優秀な学生をたくさん集めたいという意識が高いと思いますが、APUでは特別な広報を、海外向けにやっているのですか。

川本 特別なことを言えるかどうか分かりませんが、実は



